

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29245 加齢によるカラダの変化と東洋医学（はり治療）を体験しよう！



開催日：平成29年9月10日(日)

実施機関：明治国際医療大学

(実施場所) (キャンパスプラザ京都)

実施代表者：福田晋平

(所属・職名) (はり・きゅう学講座・助教)

受講生：中学生7名・高校生2名

関連URL：<http://www.jsps.go.jp/hirameki/ht29000/ht29245.pdf>

【実施内容】

〈受講生に分かりやすく研究成果をつたえるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点〉

- ・鍼灸治療の体験では、実際の患者に受講生がインタビューを行う時間をとった。このことによって、受講生は真剣に相手の苦しみに対して共感し、積極的にプログラムに参加した。
- ・受講生9名に対し実施分担者4名と実施協力者5名を配置し、細やかな指導を可能とし受講生のより深い理解を促した。
- ・講義内容や体験実習についての内容を冊子にまとめ、帰宅してから復習できるようにした。
- ・研究成果は動画や画像を用いて、短時間で簡潔にまとめ理解しやすいように伝えた。
- ・体験実習を多く取り入れ、学生が主体的に活動できるように工夫した。

〈当日のスケジュール〉

- 10:30～11:00 受付(キャンパスプラザ京都 第1会議室)
- 11:00～11:15 開講式(挨拶、科研費の説明、自己紹介)
- 11:15～12:00 講義(はりきゅう治療について)、体験実習(刺鍼台に実際の鍼を刺してみよう)
- 12:00～12:40 昼食(講師・大学院生と一緒に昼食)
- 12:40～14:00 体験実習(弱視体験、耳鳴体験、高齢者擬似体験)
- 14:10～15:10 実際のはりきゅう治療を観察しよう・体験しよう
- 15:20～15:35 クッキータイム
- 15:35～16:00 修了式(アンケート記入、未来博士号の授与、閉会のあいさつ)

〈実施の様子〉

開講式では実施代表者の福田から挨拶と参加者の自己紹介、研究内容の紹介があり、続いて一日のスケジュールと諸注意について説明を受けた。開講式後、江川が鍼灸治療について講義を行い、その後、受講生は実際に鍼に触れて、練習台に刺入した。

昼食交流会では受講生と大学教員とが共にお弁当を食べ、受講生の学校生活などの話題で盛り上がった。昼食後、体験実習を行った。体験実習は弱視体験(白内障・緑内障・全盲を含む)、変形性膝関節症体験、耳鳴体験、鍼灸治療見学、鍼灸治療の受療体験を行った。

鍼灸治療の体験実習では、受講生が実際の患者に主訴や現病歴についてインタビューし、その後、鍼灸治療

の風景を見学した。

クッキータイムでは、受講生とスタッフが本日のプログラムの感想等について話し合い、アンケートの記入も行った。その後、閉会式を行い、未来博士号(未来鍼灸医学博士号)を授与し、プログラムが終了した。

〈事務局との協力体制〉

会議を定期的に行き、大学事務局とプログラムの進捗状況について報告した。また、研究支援課が日本学術振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正等を行った。経理課が委託費の管理と支出報告書の確認を行った。これらの協力により、プログラムを最後まで遂行することができた。

〈広報活動〉

日本学術振興会のホームページからの募集が多くを占めて定員をほぼ満たすことができた。また、本プログラムの大学のホームページ内にも告知ページを作成し、広く告知した。

〈安全配慮〉

- ・体験実習に入る前に機器の使い方について十分な説明を行った。
- ・参加者は傷害保険に加入した。
- ・休憩をこまめに取り、飲食物を用意した。

〈今後の発展性、課題〉

今回、これまでの反省を踏まえて、参加者自らが東洋医学的な体質に応じた鍼灸治療を受療できる体験を実施した。また、実際の患者との交流の時間を多く取るようにし、身体的な変化ばかりでなく、病める人の気持ちを汲み取ることができるようなプログラムにした。このため、参加者からは非常に高い満足度を得ることができた。今後は鍼灸治療の直後効果がより客観的にわかる検査を充実させて、本領域において科学化されている現状を伝えるプログラムに発展させたいと考える。

(写真左) 高齢者疑似体験(弱視と耳鳴体験)時の様子。この後、ツボ刺激で耳鳴の変化を観察した。

(写真右) 実際の患者(パーキンソン病)に参加いただき、治療見学、患者インタビューを行った。



【実施分担者】

今西二郎(統合医療センター長・教授)

江川雅人(はり・きゅう学講座・教授)

和辻直(はり・きゅう学講座・教授)

鶴浩幸(はり・きゅう学講座・講師)

【実施協力者】 5名

【事務担当者】